



伊勢神宮

Photo by Kawahara

北5病棟のお正月



北5病棟の看護助手が中心となり、門松を製作しました。

『雪だるま』



ひめのそらかちゃん(6歳)作

## 言語聴覚士 (ST) について

皆さんは、言語聴覚士 (ST) という仕事をご存知ですか？

当院ではリハビリ科に3名の言語聴覚士が勤務しており、地域の皆様のお役に立てるように頑張っています。今回は、言語聴覚士が行っている仕事を紹介いたします。

話す、聞く、食べる…誰もが当たり前に行っていることが、病気や事故、加齢などによって不自由になることがあります。例えば、話す・聞くことに関しては、脳卒中後の失語症、高次脳機能障害（記憶障害、注意障害など）、聴覚障害、ことばの発達の遅れ、声や発音の障害など様々であり、子どもから高齢者まで幅広く現れます。言語聴覚士は、このような問題に対して、ことばや文字の理解を促し、聞く力を身に付け、読み書きの練習をします。また、基本的な口の動きを練習し、発音に必要な舌や唇の動きを身に付けます。

食べることに関する問題は、飲み込みに関係する色々な器官の動きが悪くなるなどの理由で、液体でむせやすい、あるいは固形物が食べにくいなど様々な症状が出ます。これに対しては、食べやすい食事形態を考えたり、口や舌の動きなどを練習します。

また、上記以外にも当院の言語聴覚士は以下の業務を行っています。



1つ目は、食べたり・飲み込んだりすることに問題がある（疑われる）方に対しての検査についてです。嚥下造影検査（VF）<sup>えんげ</sup>といひます。検査は X 線をあてた状態で実際に食べたり飲んだりしている時に、口や喉<sup>のど</sup>がどの様に動いているか、食べ物が気管や肺の方へ入っていないかなどを確認します。その結果から安全に食事が出来る姿勢や食事内容などについてアドバイス致します。外来患者様も実施できますので、気になる方は主治医へご相談下さい。

2つ目は、訪問リハビリについてです。当院では、入院中の患者様だけではなく、退院後にご自宅などで生活されている方に対して、当院の言語聴覚士がご自宅などにうかがい、話す練習や食べる練習を行います。病院の中とは違い、より生活に密着した状態で練習を行うことで、自分らしい生活を送るお手伝いをします。また、ご家族などに食事の介助方法やコミュニケーションのとり方のアドバイスも行っております。

「最近、話しにくくなった」「食事の時に飲み込みにくくなった」など、お困りのことがありましたら、お気軽にご相談下さい。

食事の時  
うまく  
飲み込めない



最近なんか  
話しにくく  
なった



こんな症状の方は、  
ご相談下さい。



お問い合わせ先

川崎病院 リハビリテーション科

☎ 0943-23-3351